イ 5
1623
1

芳洲先生たはれぐさ巻上

たはれまてうれしさのこそ楽しかしこき人ハえらぬきいて給ひ
ようそしらぬこともしはじめし事ども残らずつくろふことさ
づかで、学のそし思いうぶわしおそろしけれどいかが後のち
なる人の、まの(庭訓)をしへともおもはんこと、たゞ大よや
きもやらんのこし侍るなり。
ふるき記録のなかに見えたる、たゞなき人のいふ事ハいかゞ
の学ありても、おろかなるれやとてくちをしきある人乃いへる八旬
あるもののてらくあしちおしきある人の言葉ハちからある人こそ。
さる事ありとはいへ、ちからある人いづの学ありてもしらしめるれ

京都帝國大學圖書
藤原圖書之章
勝俣氏所蔵書
門 イ16 號 1623 巻 1
い 572177

むかしむかしある人の言葉にてなかされざるにてもべなり。歎く
べきのけなきさごしきにわ
虞翊がいさめ哉きちひぞ。税布をゆるしより羌人謀
叛せざりし。漢史にあるも此哉よみて感じて此書を作く
出りそそまちゆ志はたるを述て。一毛哉すくのそし矢
とこそ云へ
世のなかにはいつとても男女のうちをさしかくさるおこ
さりいへ此以てくしなれしも。まことにまよる人もあれし
詩始関雎易基乾坤まことにまる真知之為貴也
此国の倭言まてさ此文とて言葉れうくしくまくまして。

人の心を感ぜしむる事。まことに是れ言葉のいかでかや及ぶべ
きはまつとあるせ給るいはるのさおいつる人ならにいまこしせん
事いたく此に思ふ事多し。其の中まかくれたるもあるが此
于とらんるいは人の心をそこなふみだしなるべし。其のうちれ
おもろへよろしかから文もいづきし文かし文をまてをやせ
それより其の道にやらしにおもろくるなりんとこの時八覚え
給る雑除のえちよりあえが志さえらつまもつしば八針
かくよせまるのあまり。幕の此のきなくよやうになり給く
どきとこそうれの道いなりいるまり。其がろうにもこうんぞ。其
乃中めでくてつらん言ふれしそ此であくかつくおぼゆ

三種の御寳ハ天地開闢し始より御寳にそなへてこれのくらゐ
しるしをつたへ給へるに諸家の記録にも見えしるしたまふ
なれども仁をあきらかにさけしといへるはいかのあらうし
其のいはりハあらそがたきこゝろしるすべしなさけたるう
なれど周の道を昭穆よりおこりて是をこゝろへるといふよりく
やうしおろそかなりしかしてあまつひつぎされ隠岐
乃国にあそび給ふにいたりて冠裳さうしやうにおきてこの後
さうりかえしを給ひてかたきなるもやまひなく戦国の世
となれりけるされど天のめぐりれそれなれく雲霧のあ
とたえてらはやともにこの御寳うけつぎ給ひへ

はふより今の世までなりくるに御寳のいまだうつらねとどめ
ぬれ代にこゝろうし人のうひにつたへしもわくらむとあり
かくおぼゆるにれバ此清きこゝろのちさきかぎりかくれさ
せ給ふをかゞみの清きあがなればこれをさとりてとおこせた
まへりとはいへれいかなるおもむきにや或人のとひし
此國を呉の泰伯の後なりといへる唐の世咸亨とよし乃を
あらし時此国の人をまうしにきこゆひ出せしもなるやと唐
書にみえしはいかなる人のかきいひし史記に泰伯無子と
いへるをばいまだ従はぬさうなるはあきらけし
國史に考ふるに天神瑞穂國を瓊々杵尊にさづけ給ひしより其

後ちかきとしをへて神武帝の御代にいたりて難波より東へ
しりぞきて職方に帰せしと見ゆ。二尊の生みたまふ八嶋の外におほかの
らるゝ今の西海道まではからにちかし。隠岐佐渡越のしまじまいづ
れもからにむかへる国なりそのちかきあたりは八隅にあるさ
きて来るから人今も多し。一書に素戔嗚尊みづから新羅の国
にくだりましてとありまたからくにの嶋にうつりたまひてあるを
みればみことその地を経略し根のくにかけてあまねくつかさどり
あまがけりして出雲の国簸の川のほとりにくだりたまひしが大
己貴神をうみ給ひてかれが根国にいでましぬ。これ又
韓にむかへる国なり

自注。むかし三韓をからといひ西土を諸越といへるは
つれ時からの混してからとではいひたるかといへり
誤りなるべし
八雲八咫八坂八幡などいへる此国にて八の字の数に多くもちひ八百
数をいふにおなじくかずをいふにてのこるまで八部からまでもつて曹
とほうさ越わけちらしを此国にては八省と隋ぶめる
とぞのうとなりといへる人あり
大飢饉ありし時さるる人あひくらふといへる
事紀伝にいのほどにみえしより此国にては獣のたぐひを食
とのまつさへいみてくはぬゆゑなりとぞ或人のいへり

神の使ひなりといへる鳥けだもののたぐひ氏子かく
うやまふかみをいはひてまつりてハこがねしろかねをあかくも
おしまずまつるべしといさめるあけんとハちかひいひまてもかくのあり
いふ事なりかし
此国のごとく大国たる弓をとつて用ふる所のなくなりけれども
むかし人乃夷といへるもまたこの国をさしたるにや大
連少連といへるも此国の人なるべし孔子の九夷にをらん
とおもひたまふも此国孝順の俗ある事などをしたひ給ふ
にてありしやと或人のいへるもさることなりし外の国
をも狄といひ羌といひ蛮といへるハ南西ともにけもの

のつきとものしなれど此国ハ仁にして寿命な
がきゆゑまさしき君子ありとていへることもあり
きとして代々の記録をもけがし文字をもおこし
たまひたりもとおこる事おほしされど仁といへるも
そのうち義礼ハ天下のたよりにいのちながき事
人のみなまよへるあくがれた国にすまいぬ人
ハその道をよくしてわろし人の気象こそならぬやう
なきこそや
此国ハ人のこころもやはらぎて夏商の風をうつし聖賢をし
て今の世にあらしめておはしますそ忠質の間をとりてそし

つかさどる事は、周家の文章よりてまつりごとかはりし。むかし
政のさかんなりし時、おほよそ事の官職規禮をさだめおかれ
しをのりとせられしかば、衰季のまつりごとをもちゐられず
此國の風俗まであらたまり、三代の道をもちひける事まれなり
しかるをいひつたへし、其のあとをまもる人のやうにおもへども
ろくにしれずば、ひとへに古今のことなるをあらためて風俗乃同し
からぬといへるたぐひなれば、いとかなしき
自注三月の服は夏后氏の禮にして、同姓不相娶は周禮
のさだめなりといへり。ひとつをあげて其他をしるべし
さるべし。代々の風儀をうつされし漢の時まで、およびしはれもかく

まことはなかりしかば、ちからなきことのはかりごとをなし、いまも
づかにおこりしにや。おほやけの事をやかく議論して、ある事は
ある事よしなし。小事は大事よりはなし。おほやけなりぬと覚ゆ。然
事なりし。ひとしよ我あげたまひて、御製の侍るを第一代乃う
ちに君下の位よりおほくえらび出し、一部の書として、其
よおそらくすらもの、代々の撰集のごとし。又は法師・女
うなるどいへるものなどなるをまがひとおそるゝところ
なかる事あらば、なかれけるとかいひ、又は不敬といふべきことし
までいはざるをかくすなるべし。これそそのことわりさる事
なれとはられずまねしろわものごとくあそびて、はちのあ

ここらしくわかくさのあしはらのゆたかれにしてあめがしたの紀風
儀なくておのづからのしたもなく。もろこしよりかよふとは
なびてよろづをいふふみつきよりもあらば。めいしその時世の
いはれなれどすこしれをおしてよそほひつくろふ
はあしたの文のはしくは小人とて儇なりといへる文集なるし
ろしとおぼゆ
自注。文のはしくへ大史公曰。文之敝。小人以儇。注。文尊卑之差也。儇無悃誠也。細碎也。白虎通作薄。
そしての風儀をもせばしとのゆるもあるまじきうやしかるぬ
ともゆるもあるとぞいへろう漢より後の風儀はせばしなど

いはづきうや
ある人のいへらく風儀をまもりし。わが日の本城径山寺にすむはら
まちうられど。遣元しけるとなく。せめて三代の時のうつらう
今もまた。遣唐使もなかといへる人あらしに。菅相公おんさわう
まていふしきやわりなれとおもひ給ふべし。日出處天子より
八東天皇なまくし給ひくはさあいり彼国とりあふさうよう
らん須美羅弥古都としなすまひなそ。いへるもそのなゝいふ
はいま書をよろしくあるべきれどもはらひを掾ふるの礼儀
をはじめ書中の文句いづまはられ蕃王をまちの武よまかひ
いはじ曲江集などよみてきうべきなれば遣唐の御使なるさよ

まうしゝ。或人のいひしは。わが国の人は高麗のはかひ比下の筋ざ
つらし事ながら威光のごとくおぼえて漢の匈奴をあつかふの礼をて
ちがひ。規模なりぬといへるはこゝろづきなきこと也
そもそも世界のなかにて。仁義禮樂おこなはるゝ聖人の国を
なれば中国といふも。ことわりなりといへるもありかつは
国の人もさればいつまでも中国なるぞかしといへるもあり。韓
人も其国をあがめて。えびすにはあらじといへるところにて東
華とよぶべきにもえびすをなりといへるところもあらじ。元の
とろしたる国にれて言葉をのぐるをせしそうふし。宗の
南にもとよりはの書ぶんもつて禮をさるとし。国を揚チ

としたるぬは十五省の言葉も天子の用を先として。說とと
のちとこそたるぬしきなれば。国のことも北虜南蠻西
域はまちがひなくやうなりともいひは。韓時中といへるから人
されはそのわかくかくて。夷の字をぬるされかくさふくぬ
ところなき
世の中はあひともちなりといひやしきこころさとよいへるやまとを
道てよふかなるこころをもすべし。都やにあつて。かたなかるけ
まはは国にちがひなきがごとく。中国ありても。夷狄なるべし
小生育のとこあはねつるひ。菜材器用をはじめ。大事小事
とそれだのひは立ちまさる事多し。国のまうなくさことといや

しかるを君子小人の多き少きをいはず風俗のよしあし
とんぢやくべきは中国よむすびつけてはなはだしきにもあら
ず。又夷狄よむまれたりとてはづべきにもあらず。おろかの
なる人は田舎人のおなじうなりと人のいへるごとく
てちゞのきはめがたくおほよれゆゑもなく其の国を中国
なりといひあへるはさる事にはあらずや
あしきとおもひし事も其の中にいふほどもよからずあり
ときけば悪をふくむものゝこゝろまでもうつるなりときく
事なりとおもひしも其の中にまさる人はまれなりとき
ときけば善をとるのむねとこゝろまでもよきになるべし

蓬よもぎれちのあさなかにおひぬればいやしきもすなほなれば
あしきなれども世の中れ風俗をそなへなきものとおほゆべき
はなはいのちちぢりしいかなればかくあるやらんとおもひしに
多きゆゑにこそ。松杉の木ならはおよそしんあるものゝことわり
すなはちあかりよりおほゆ。国も家も繁華なりといへるて。
むかしかれどやさしきことにあらざる事によりて
文かくこと。翰字をかく事。此国のむかしはそれぞれをもちいて
ざわざと。ある公達のうへにもおほかたきこえて
しらぬ才のある大徳のありしむかしあはれの碑にちかく
ぞおほきことみえて。大元帥といへる翰字しるしやられて

ぞおほゆとある人のいひし
此国ハ災異(サイイ)をもつておそるゝ事なかれし。されど祥瑞(シヤウズイ)をも
て、めづらしひのたからけとせらるゝもまさにこゝろえし。元日に日食(ジツシヨク)
あるとぞ、百官ことごとく命(メイ)じて政治のおそれよし、得失をいましむ
るの事、あれがち言(コト)をもとむるのまこともあらゆるとも、ゆらねどは乃
ちまては、むかしの儀式(ギシキ)のやうになりて告朔(コクサン)のそつじにお
なじくなりしまてハ、さまでまことぞよき。此国までその
わしすねをかねるるはおよぶべし
ところ人(ビト)気儀(シタギ)をそる時にの事いうで杉をひ給ふやとらへバ上(カミ)
をはじうかゝらぬを人あハせよやかくてるちよわまハか

かゝりおもひ侍るなれどかしらづら言べくいひいでぬぞ。お
ほかたハおほ苦しき事なれどのくらひて言そくそのなり。
ところある人もふとさりてハさりしてわくとひよわも侍るぞと
ひつゞきほとりやあるべきにつきても気儀に似(ニ)てそれどもその実(ジツ)
ハ気儀にあらずゆゑにそつ銭かなひて、めいめいしそのおもひ
より銭にきつきて言てかはらやうにあり言ふそれそのし
世のすれそむれんとせる時そ気を取(シヨク)く盗賊(タウゾク)おこるそのあり。
盗賊といへるそ、つかれぬを人にハあらず。百姓の升貨(シンクワ)上算
くしおもくなれかゝるにらいさへ人ともれバ、どのそをかくらす。其
よくてなりなんとされバ妻(サイ)あるも銭をそぐるもつきなき採(ヤウ)なきよう。

やむことをえずして。徒黨をむすび乱をおこすにいたれり。それ
よくしてハいまだしれ變故をまねかず。大藩小藩ともにひくのむ
すなわち大きなるみだれとハなるなり。脾胃そこなふ人の百病
こそひおこりて。死をまぬかれざるごとく。おそるべきのそれはなはださ
なり。志かるに年貢運上のおもくなる事をいへバ。上たる者
人のおごるよりおこれり。それおごりといふもの。華美榮耀を
好むはじまりにて。いまだその分限に應ぜず。入るをはかりて出る
を事とせずなることの為。政をおこたりさまにて。大家小家ともに費
多き事なる。年貢運上のことにて償ふべきこともなくして
く。民をしへたぐるにいたれり。國をうしなふのもとひはじめ多く

ハそのご烈しくして定まれる年貢運上の外に經費にあ
まりありて。自然と仁恵のまつりごとおこなはれをるに上からゆ
ゑ。下やすらかにして治世のありさまなれど。一旦上に驕をきざ
二驕をきざし。いつとなくせちからのちからハいつとなく乱れ
そのことおもくなりけるほどになり。いはんや分限の外に出て
下をえてつるにいたれり。そこを事あるにいたりて。器物に
をしめハ素器を用ひけるに。いつとなく漆器となり。やがて
いつとなく彩畫を加へ。すこしいつとなく金銀にてかざりて
ほどよく用いたる衣服とてもはじめハ木綿を着しが。いつとなく絹
もさるれなく。すこしいつとなくそうぬことなく。それよりして

はゞんき、ぐんちうなどいつれもえらしのその銭をつとひ、又は
らしや・ちやうじらひなどいへる蛮国（バンコク）の品（シナ）を用（イタ）てなとよれく、
かくふたゞびよとくなかれば、そのいろものくかずいはくふ
されども、はくのもんやそのあひくはば、おぼろ銭禁（キン）ぜらる
るまゝくぶやしのこのためきことまれる明君賢相（メイクンケンシヤウ）なささは
しもあらねど、おほかたは小事小物（セウジセウブツ）のことをもつて銭利ひ、
大事大物のいつもれくふれはよろえてゐるをしらよるところ
はきさなられば、禍乱（クワラン）をまねくふ益（エキ）とそてなりぶかし
いつのまにかあらん、林木（サイモク）のはえひくをいとひのあらとの横（ボウ）
はらそへしときもう、八さくら州は、硫黄（イワウ）銭つまらるを

はまくりといひしは、今の世の木銭用ふるいかゞなりけむ
そぞろにむかしの人のいつれもよくはからばよくて、はなぜ作りはあるまいとなの
ことなれど、ほとほとくやうにて、なりふ事によろこびをさしもろいを、
さとしやくはなしけるとさてはいやさことそこそる事、銭
みぞうらいひをもちてそのしえうし
あゆはもとゑてしくおひ（生）いでてはふぞうのね（金）、きつうのみ（銀）、あかゞね（銅）
をさるぞうまほり（掘）出し、ありやてようし、なくてしてきもひくといつる。
ことさらの物（異国）まゝに、五行（ゴギヤウ）の気を損（ソン）じ、老後（シヤシ）のみやくゆく
えを善（キナ）をはふしぼとのをもしむづさとハ、らみくつくそろくの（鐵）
ね、ハ此国の産（サン）をとらぬとらば、蛮国（バンコク）にまでもれたもをはあらた（譬）

兵をつかふにおなじくてむかしよりこれを禁ぜり。其
もとより其のため農器のとぼしからん事をおそれて
なくいくさもあるべし。其の国にちからなければ竹をとりて
ことさら旗とし木をけづりて戟としてさしもいくさの二
のせをしも平地となるときハ兵器ハようもなし。されバ
やわらぬぞんぐくされ。南蛮よりきたるかぎりの
まて刃物にそろひとぐのもてもやせる物をあつめバ此之に
乃ろうのぬめをさくれうともいひがたし。かゝれバその
ぬも此国にはきわりといへども。かねをもなくして吹煉の
法のえにあつかふ者あるべき人ハなきにいたるのしといへり

自注。胡居仁曰。金人不以布帛換金銀。是他有見識。
ところにハ金銀をほりくして。此国にハ多しといへる人あめれ。ま
ある人れいへるにさまはあらん。此国ハ金銀銭をしいるところ
なきがゆゑに掘ることやすからず。さて多くハ天地の
ものを生じおほくさハまぐる事もなくまことハきら
ざる事もなし。此国の金気あまりなりといへることわ
りやあるべきかさりとハ金銀のあひえずして此国ハ
さかしさらで金銀のもとめさる事ありてあしかりやと
いへれ。又武人のいへるされハあらんざれして金銀あ
らわれて銭いたらば此国にハ幾万倍といふほどもあるべくなれ

どうきを用ふる人多きゆゑにて。其價(アタヒ)たかくきこゆれ
くるべくして此国ハあらゆるうちに其たくはへさ事。又ところに
よりてちがひあれども銭用ふる人すくなきなき故。
價(アタヒ)いやしく多しとなくたゞ八奥(オク)をもち某(ソレガシ)といへるあへつハ
米(コメ)多くぞありしやうとしてまづい。米の外より出て
ふの外。一段(イチダン)にハいかほどいつるを知らず。されど赤金(アカガネ)て多くハあら
ぞ。船のたよりあしく此国へ賣出(ウリイダ)さぬハ勝手(カツテ)よろしからず。
おほよそ其国のよきところを用ひて用ふる人もくれさ故。
價(アタヒ)しきかくおそくよりハ多くきて見ゆ。某(ソレガシ)かくいへるて庶(モロコシ)
をもつてされかとし。此国於(ズト)せんといへるにハあらんぞ。

西洋人此国ハ金銀多しとのこころえ。ことに實(ジツ)ひとつきざるゆゑ
おもさきものを銭みいだすほどに出(イダ)し。或(アルヒ)ハこれがために渡る
し。或ハ此国よおくつて此国のゆくしはなはだひなる
事ども。ことに何かはなはだのあまり。かくハいへるなりと
ぞきしとぞ
此國ハ絲(イト)をくゝれば。とろへしようにまうる人なく
ば。衣服ゆたかなりしと。いつし人ありしにある人のいへる
ハ。此国の絲(イト)を少しよりもくゝれさかたがへくれと。かひこをく(桑)
ちも。さかな此国れ産(サン)をする家なきは。むかしの王后(ワウコウ)漢
じめ。親(ミヅカラ)蚕(カヒコ)の禮を行(オコナ)ひ給ひてより。下ハ士大夫(シタイフ)乃妻(ツマ)あまりて

もそのやしなひしなくそのみをもちてごれみやまと。その
ひとゝなれば。風俗よからずなれば。絲のたくはへさる事やあるべき。今
も絲をはくべからずる村里なきにしもあらねど。それとても
これまでは絲多くもちのも其ゝあまりいやしきゆゑにはあらねど
しらべてもちひるところの利すくなし。人々これを益不益
かんがへがたくしていかにおよばざるなり。此後天下後世の
事をふかくおもふ人。すくなき絲をたくはへそろへしむべき
さまれる絲を禁じ。家々に桑をうゑてかひこを飼ひなば
事絲をしく絲にならぬべしといへりとぞ
唐船を禁じ絲をば薬材はいふにおよばずともいひし人あり

しかる或人のいへるをきけば。やまとの事わかちがたし
の司なりてあらむかれ数をさだめかぎりてわくらへ
材のみを来り。薬店ありてはじめて下知し絲なくばなす
乃ち事やあるべき。渡唐を禁じ絲のみ麝香のもとゝなる
あらゆるとき代るといひしかれば粉しやすき事なれ
ばこれをふせぐのみちやうにもあるべし。去る薬材なと
その事までもそれは下知し絲なくても渡海は法
これにはのみそのてとゝのへ事上おこり下私し衆人
多くなり。これらの唐船の事あるはまさしき事あるべし
良法ありても良人なくんばそのわざをおこなひがたし。世は

中にハ歎くべき事あることおほしといへども
およそ法といふものハかはるときおこる法かんがへてかはるべき法
よておきて法をもて一定(イチヂヤウ)の法(ハフ)をさすその長短のある
そのかたな(刀)法をてむかしよりかはらぬゆるしのめしきれどもよ
ろばよろづへなるさとりをけやあるべきあるかなるべくつの
ろきさ法のみあるべきとよき法をさだめるよろしき
むかしハ素服(ハレギヌ)ハ素襖(スアウ)をのみなりしにや今ハ上下(カミシモ)と云(イフ)
その始末(イテキ)ひとくらし法事などかれねなどきれくあつて
事わざつらはしくおほゆらさざきてかなはぬほどのつくゆる
ふるきあらためてすなはちいかにもおのつからそれそはなる

ふるいふれども此法ひとへもかたちあるかたしむかしの素襖(フアウ)
よかつるんよハまつりごとといへる人あらしらぬ又或人(アルヒト)のいへるハ
さるよハあるまじ衣服(イフク)ハ身に便(タヨリ)ある物よしとれ素襖ハ身
よかたらかあるざはふくのなさしゆゑいつなくその袖を截(キリ)
もちろすそもちひ来て今ハ上下(カミシモ)とハなしぬれ今又むかしの素襖
よかへらばつきらかけるよゆうしかるべしといふわきあとにても
きこえさぶれんゆるさまでおほいなるものひな今ハれば
ひえをはぶくさも程ほどの事にあらんその上あまりて
ふくらもの人皆のしとも傘もれハかさの下上雨など
きこゆられとおほくちゆくれがきたち遠道ともすゝむもさゆく

げにさるべしとて
此國常の衣服いつの時よりかくハさだまりけん、むかしにひきかへたる
事おほし。人のせなの八陽にして陰をまとふむねなりやとおもふ
寒くおぼゆ。此國れなの衣服ハ、その二重四重なる
ときぞのさむさかしハ、ひとへふたへなるハきるべしの
衣服もさあれど、これのくれぐれのとほしはことにぞ
あめふりしほくのころね一襲はきるもようしとおぼゆる
そぞいなきのきてござなる袖ある綿入るもの寒気のふせぎぞなき
ふりてもあしぬはそれぬれはひえ無益なる事なるべし
や。肩よりささへぬぎかけしよりきるもハ、きまでさむこそしれぬる

ゆきかけにし紀にあるものそそよしとはうまでははなくなし。
綿入れるものものなどに、六腰かくさうりもはいはしまかし。
道ゆくにもたようあんとおもへる背をちぢめひたる世ほ
ゆき、腰にあからたるハやがれてかし道ゆくまハ足にて湯
とめ紀のそのいつ時まで、いふあるくさは足とふとはいふ
まじ。孫よりもハめひあるものもうなかぐ事なれどそのころに
あつらへ人にそはしくたづねてから常の衣服ぞたくくらかや
うけひんなるさかるにあらたむべきなり。もろしハ上衣下裳
といひしかときしふかくなむわしかど、ちまでたたうあしきそれ
まやこのそらハ、むとつくさはなりて此國の常の衣服もさあれハ

素襖（スアウ）といふハよろしきものにて、むかしハさむらひなる人のきる服なり。
かミしもハ袍のころもあり、それハまるえり（團領）にて、袖ハ
ひろきなり。からのまねにして、是を此国の礼服（レイフク）とさだめ、五月よ
り八月まで羅紗（ロシャ）をもてつくり、布（ヌノ）九月より四月まてハどんすを用ゐ（ルイ）、
てぬきなどにてもめんにてもつくりて、それハ分限（ブンゲン）に応（オウ）じて丈（チヤウ）
し、今はそのものなり。夏ハひとへ、冬ハ綿入（ワタイレ）にして、その衣のけ、
裁（タチ）めひ合セ二便（ベン）の法もなく、たゞまつけるものを、毛（ケ）の帽子（ボウシ）
の袴（ハカマ）ハ脛（ハギ）のほどなり。寒（サム）さにもはかまハ綿入（ワタイレ）にもなく、ざハりなし
まとひけハさむき衣をきせ、ぐにあまりあるべし。かやうになど衣
服あらたむるハ、其さきハまなそてそれほどよりも及ハざるべし

ひとへなるべからず、いやしとある人わらふべきなれどもたゞやゝ
き事にハあらじ

自注、衣服之制、果能如レ此、毎二一件一省二帛不レ下二数尺一、綿亦稱レ此、挙二域内一而算レ之、則為レ不レ貲矣。

衣服改制（カイセイ）の仰（オホ）せあらバ、いろ〳〵とさま〴〵人の申さんを批判（ヒハン）
する人多かるべし。されどおほやけの冠服（クワンフク）でそのはじめ此
国にハなかりき。服のかたちハある人のいへるごとく、大概（タイカイ）なり。
慥（タシ）かなる事ハ、此国の道服（タウフク）をはじめ、異国（コトクニ）の服まで皆（ミナ）
しあつめ、そのうちにてよろしき礼服（レイフク）・便服（ベンフク）・尊卑（ソンヒ）上
下（ゲ）のちがひあるやうにさだめなバ、永久不易（エイキウフエキ）の服とハ成（ナル）

べかれまじきやうなる事にもあらねど
あはれ人みやしき銭ひろひてむきをなをされしは年月のうちに
ありこびし南むきにてよからんといへる人まづはにおほくなる
そのほか火災（クワサイ）にあひくられど今までといひて南むきなる
なりたるはそれ〳〵の所がらむきによかりしにといへる
人まことにおほくなれば今まで火災にあひてやけ
むかしよりむきたになりたるのはさくにさかへ乃
南向なれといへる人多しといふはさもありて火災
あらざるゆゑの南向となるべし。まことよき事もかならず
おそれやうしてかれにあらてハかしこきにゆかんとする銭忠也。

かれをなしてハ其まゝとせん事銭出ひてんさわりしく
なきされどんにあるべしおそくるよき事ハいつとてもそ
まじよりしかどかられらく銭やうぜんぜんにはあまた
峠科のかはりのたすけさとおやこあつしよ首途ゆく人學（カク）
のいかなる佃業袋（フクロ）銭おとしれたる銭手子をすこしとるにか
けあがりよひくかへさんとひたなる事ぞ丘
きとおもうてもおろかに學のなのひとへにいふべき事に
かなひくわのたまざ銭をほうそといふたもとかまんとの
人ハ荷貢（カキ）丈人（ヂヤウジン）のたぐひなるべし
譯（サナエ）に仁徳帝（ニントクテイ）此御陵（ミサヾキ）をはじめ諸帝此ごさく今ものの

ころて、あら銭なるむに、おほやまのごとし
まへにその子ちりてある人は、周の法なりとて族葬
といふ事なり。方孝孺の文集にそのよしみえけるしかいへりも
づらしもなりたるとおぼえ侍りき。此国にても遠くはなれかゝへひけりこの
ぶる人は国をこまかにおもふのはじめ、村里にてもあちこちつゝへなさき
ことにてもをたてることもあり。人をさづかる事をいやしめらるゝ
きこえてはそのほとりあれども、年経て後はふるきその
をあばきてあらためしことありけり。つまびらかならずいかに
といふべし
此国には諫官もなく、大目附などいへるは、御史の職にあた

れど、弾劾の式さだまりしにはあらねど、ひそかにいふ人あつまりて
此国は今にでもよりあることもある。或はあしきものを人のあれど
うらみたいさめなくてもよろしとおもふまでもあらんや。百官のつとめ
さのようにあしは聖人のうへも及ぶことなかるまでもあるべし。国にて
のいさはひをいれてもふかくおそるゝ事もあらむ。
人ぞまつりごとをさだむるにはよし。六諫官なしといへり
漢の薛廣徳は、ふねはあやふくさふらふ。はしよりわたり給へと申せしなま
そのときはいさめしは血をたちてけみかんといさめしと。海まで
あるぬこともあるべきに、御遊びともな
つゝしみにあずかりつゝも、おほかたは、白麻にそかんといふは

ほどの人なゝとせまで、なにのいさゝかもなきのうしろへたちとき
と、明儒の倫ぜらるゝ事をおもしろくおぼゆ、されど宋儒
ハ、薛廣徳をよしとし、陽城をとそくさんと倫ぜらるれも
亦おもしろしといふべし
そのうちあしき親のなりし、朝夕切諫せし人あるらしよ。
或人のいへるに、子はわれらの事はそのことはおやのお
ぼえのまゝにかなしやとらつるよ、こゝろざしありてさいはなくさ
からひきとゞめられいでて、いさめしきもきらざるも年ごと
そむきなんとや待まで、しきりけぶりのちよハさきづ
らひおぼしめさばあるまじきこといひくらそのよなり

し人なとうちつまねきこのほとみちゆく人の言葉にあ
らそひして、とし寄けるとのさとうちつゝこれなどさとは
さわしきて孫子やそいひしよいふるにやさうんおぼえ給
ふところふがそのおやなれども、年寄けるもの、くらし此
おそらさまで、やらとつゞぬ此事なられむかし、これおやの
あつかゆめらる人は孫くらしめ孫小事をとりしれはんがへきさるを
ところあやしげなるといひ、よけちぐのほしてなきのこと
悲みもなし、そのもちハおやこの年むつましくなり寄ふ
と、かゝれなふ人あり。
或人やんごとなきはべるこれぞなりあそばさしかるらしまく

かくおもふにくすりはよわき人のためにこそ気分のたすけ
といへる薬にて病なくてもかならずなくてはならぬ
すなはちなるべきのちからをまして五臓を[illegible]
らのちからをましむくるは遣合にしたがへばなり一概にいふべ
からず　やまひ[illegible]しこれはよしとおもふは人
のこゝろ[illegible]いへどもかれはよしとおもはれ
のおもて[illegible]つくるまでとくにあるべし[illegible]
まちがへることしばしばなり
よのつねのくすりをもちゐてかしこきをあざむくことなかれ
ろくなるをまもりてかしこきあざむくもかしこきをあざむく

されどもかしこきをあざむくまではなすべからず[illegible]
としてかしこきをあざむくまでかならずなすべし
なり
それがしわかき時武蔵にありし時、医師にて人参をこ
用ふることをおそれたりしも人参を用ひ
ぬまでも人参のことはなんといへる其の人々人参の功あり
人も見しもの[illegible]しらず[illegible]
ここのくすり李士材・蕭萬輿などいへるもの方書多く[illegible]
ちかごろの説にはみなひとしく人参を用ひざることなし
人参を用ひしもあれば[illegible]ならず

つへりきうころ文むきしるゆゑさ杉菜よあひしよ其の人く
急の害ある事纔まくぞそとかくるく。其事ぬくこうまらぬ論
景山が通介なりとは先ろうなるま見識ありて世乃
たゞやうよまへこゝがハさらくてたふとぞ之れ
乱のこゝろれ上癇気をうけれの血のうちよハなさしの方書纔有て
くりれふ世事よりハ其れ人の家伝とハひさくとりまわせぬらぬこ
そしよられとらふ人ありぞゝる事しるや
かゝ人の物語よ毒蛇のかまれて家ハさうそく竹のつゝうして
よくおしつけ毒気ぬけてのちよそれあおれらゑと利刀よて
きりのそけハいでゝもなくかハるありとされさくいゆるゝと

いへり
わかれさきし越えられ人ごとよきくなるとふすよハあしくく
法いなるもおほしきれど脈をとりくるそ、纔うちしわ
事此国のくすしよハちくりひくそしきやうにお法もに
まゐりより薬ひといろまでもらしもとゆる事あへしられさ
此国のくすしハ単方なりといひくわんど許胤宗がり
言葉をとえまへバさうよはあるまじ

自注。許胤宗曰。古之上醫。病與藥値。唯用一物攻之。今人以情度病。多其物以幸有功。譬獵不知兎。廣絡原野。冀一人之獲。術亦疎矣

ある人云その識家によりてさしこさせしにはそのくあしく
いのちなりと消息せしかくそのるけいひくなけうこしこ
法印なりし天台の初しまのいつるをゆるさしし此国さく
さしの衣裙をこうざれぶ風儀ちのしもぜして一向しさこそ
ふしぎなれぼはうみも莊嚴よろしかしね八庸俗の人八
なかとみおもふ事ろとこさとるとおなし事なるべ
しされどほかのめかさりよりうちれのかざりなるるやそれ
のし三綱よあるらし時やそのあつしなるそのかるし
八ははなまうし八無下の人まてをもめて事事まうし
時さてなる人もかくやぶれのさかけ木像いとそうくし

かりそめにも人柄あしからぬふるまひせよとおほえ諸人をしひ
しまふ今の世よりみをかくしてハ人のれたとなれりとかく
あらそれは言忠信行篤敬とのこるまゝほかのものあつきよ
さはべきれるなくのはをなすしへもふとくよくしとこ
そのあしくとつきハなそれにかちのはいかとはしなな
あべしといつてあてありかたきさくしほなや
あすより秦の始皇の事を論じてそばくおそんはっ
教者の説妖言とし直言をまとめの説誹謗を乾也といへ
てかくありてハその國いつてかほどろうむさしむぞまどか
海書く説ちぎのさへつまてよてめでくしさ事のやうよふ

伺えはれと、其の所ろのおもきものハ、いまも忘られ人のお
はえて、いさゝか病皆又ハ水火のうれへなと、思ひよらぬ事あ
らばおのうじめられもなくてハかなはぬ事なり
かぞへかたよ、かとは禍福来るともつゝしまぬハよ
もしさき事れのかなはひそうちてたゝられもらべのちらして
のこゝろほくおもむきを隠るゝのを妖言しちる外うらめ
かゝ隠すもちらそてハ、みなもあしてすぐ人のおもひもつゝ
といひそわらそもいひて人をそしのしめ給ふといひなさし
うらしむくつされて直言するのを誹謗とし
そなる、いたりしきことなり

おそれてその呪咀といへるもていやしき誣わさなれど、おそらし
からさる樂ありや。人々も哉して、たゝくところをさらし、なへば誹謗妖
言なりとて忠直の人をうたかひ、さまざまにあるまじ
舜水といへる人、明の末に其国の亡る哉のおりに、恢復の志
あり、本国にまつる哉ハ、ちかふねぎし、師傅の位をさりて
侍ら給ふに、諸ハ昔の封建の世をさまされてといふを
あれ、今は末の世の郡縣をもとなれりといふもありてその
說さまざまなりし、日本にありてはじめて封建の世の風儀と
いふものを親く見て、すべて三代の古ぞ聖人の法なり
とかへす嘆と語られしとぞ。柳子厚が封建論に封建

ハ聖人はんにあらず勢なりといへる。聖人はんにあらずと
いへるもさることはしられど勢なりといへるもさもあるべし
郡縣は世をまつり。封建は世を郡縣にうつる事聖智
の君ありてもたゞやすからぬことなれば勢にまかするより外
なかるべし。此國も郡縣なりし時もありしかどいにしへとなる
くひぶるは法をまもる。封建は御代とかはりて上下ぞんぶんを
やすんじめでたくおもへるぞやすらかにいふべし。くはしくかくれぞあ
ここもじのはきゝまとひおもひは人の心をそこねさばきし政
なるなれば周家は八百年かゝるやうにさやかにかぞ
へ侍るなりとおもへり人はいかゞおもふや記

芸窓筆記論封建曰、封建郡縣孰優孰劣、古今儒家議論紛紜。余雖庸劣、二百四十二年間春秋、一千三百六十二年間綱目、略窺其顛末、間嘗以為郡縣不如封建。既而屢遊朝鮮、觀其郡縣之俗、亦以為郡縣不如封建。然則彼其以郡縣為優者、乃古今儒家迂遠之慮、未審而折圭擔爵、躋々蹌々、上下安分、共躋太平。余以為唯有我國物循固然。事有心至。蓋郡縣之世者、天下人心奔競、是務賄賂盛行、讒毀併興、雖有善者、難以為防而已矣。或問賄賂行焉、讒毀興焉、何獨郡縣曰、鈞之利也、商者之逞々、酷於工者之役々、勢使然也。

から国にあとさきのつかさなる人おほぜいそこばくあつまりたまふ
に朴射夫(ホクセキフ)といへる翁(オキナ)ひとりにかたりしは、わがくにまで鄢陵(グンリヨウ)
の世まで下なるものの上をあなどりてかへりて自然(ジゼン)と諫の
ことばもおほくはまひなひもおこなはれてあしたには
さのみゆふべにはおとろへ世の中みだれがはしくなりぬ。其
代国のみな人その無事(ブジ)を守るものやなしとおほ
ゆるといへる事ぞふるき事なりとよくおもふ人はしるべし
周(シウ)の赧王(タンワウ)の避責(ヒキサイ)にてなをまけ給ひしはさることあるべし
此国のかむつかさはたらくへしそのほかのもろもろの
しもおなじく租税(ソゼイ)の納(イリ)もかぎりなきに債(サイ)おほき

そのころは門にむしろまでしきみこしはこのほどにたまはり
ふみまであつとらふひとつそおはするをとらへて、あまくだりの
あきらなる事をしるやいつぞはやうつりかはるゆゑ
或人(アルヒト)のいはく
狂歌(キヤウカ)といへるもののひとつのこころをあらはしむかしあるを
とききく人のおほくあつまり給ひし時、狂歌よくよみける
つれづれの伺候(シカウ)しけるまへに借債(シヤクサイ)のことわりをとのひしに
よめる歌となんもとよりわれもかりぬるなまなかなるによりゆめ
のうきなればねられもやらずときうつるに人のこころ
ありといふらんや

むかしハ徳政といふ事まゝありしとかやされど此市
かくなりてハ乱をおこす事までのゆるびとなり終へにあるべし
されバ人のいひしとぞ
あるときのまつりごとかれ人のあまたあつまりてむかしの地借ある
我家をまもりてもとおもひ侍る上おごりて下をなやまさるゝ国
乃民ども年貢運上のおもきにたへかねからずしてその
なりはひのはかなきまゝそでおちやすくそのゆるし此我かハ
かの上のあはれ至極なるを哀訴といひあるひハ一村
ふたむら又ハひとこほりふたこほりもろびといひあつまり国
其かしらの者とれる人のまへにおしいりてたぐまりてせひを

たゞもひの事を要訴といふされバ民の哀訴をかれ
のぞみあたるまことこれハ人のふくやゝもひだきさるハ此ごとし
おごりをおそれぬハわずての事あしきが我らがまゝ
又はさ諸師もありてそのやまひを療ぜいあるは何事の
あらそひ民のくるしみ甚しくせんかたもなく要訴するに
至りてハ下けらくハすこしふかくなれど上たる人ハかへりみ
まろもちろぬく出来ものなれハ学の批判などおそるゝことな
かれつうしことがゆるなどしあるもろしあれどたくひなき
なるはおよびてハかしらだちくはそのとがれおこらなひさ
ひしくいましめてまびとちかなりし人の智恵このましく

いにしへをおもふにたとへハげにもよおもひ刑罰をもちゐず
きめんとならバ補ふべき病を下ミなる醫師にまかせ
いんして猛薬をもちゐ元気衰弱してまたかくもあれ
道からなりて八乱をさする事をそのいはるそのそこうし、さ
きこおもき病ありて下ミなるくすしは薬のかてて、朝に
めにて夕は死するハわれなくてのうへ乱のをしめと思
よりして世の中をおしとらふまでハおほくのとしつきを
ふるものなるゆゑちからある人のほかをうれへてやかく
いふそてこよりしも事に思ふもありにハかくはらい
たくおもひもありてさる事やあるべきと月日をおくるべし

ゆくゆくにはかならずいひがたき、よきもあしき世の中とて
ならずもあしき人のたすけにもたのみがたく遂にふせぐ病づ
きて、わかき身を夭死ありていのちはかなしといふの文となりにけり
ふししかるあるそてかなしきにはやけれあやぶむことなく、ときの
ほかのいは、かなる事とそよくしておもひはかりまじき
なるまじくむかしのことは今のやうにおぼえそぶるに涙
ぐみてかなしみて、ほの世のいましめともやとしるべし
侍るぞ
自注、あやぶむみこともとむる、共天工なり、國に輔佐
人をいふて書経に天工人其代之

貨ハ國のたから財ハ國のいのちなるゆゑに平天下の章に財
をなすの事をとき給へり。されバいへどもかの人
でもあるべきものゝみなる人ハ仁義禮樂の事ハ文にても
らうしかくもいへど財用の事ハ口にもださず是ハ
人のこゝろのそていつまて事なれバされいやしきことゝ思ひ
義をさきとし利をのちとしてへくにゆづるもあるべからね
ど。たからもいやしみもたからなくして何事をかなすべ
き。許魯齋の學者ハ生業をさきとするをもてさきとせよといふ
るそしれがたきにあらず。されど財をなすといふとてかの
ほどのひをはぶくてる事物をいへるにてそとぞんじてかくる事

まし。人をやせしめておのれをこやすことハあらず

自注なるハ。漢書曰。貨者國之本也。唐書曰。財者國之
命也。賈誼曰。積貯者天下之大命也。損下而益上。瘠人以
肥己。盜之道也

千里の馬をもとめ。雉頭裘をやき。宮女三千人を出せる類を
みて上たる身より倹約を行ひ給ふこそ。すくなき費をたすく
るそのつぎ。されどもれにつぎあるまで。ここくれぐれもとむることの
なかれていふこと。倹約ハ名のみあっても實ならざれバ國
をたもつ益ハなかるべし
ところ人のとめがたき或人ともかがちかるくしてのぶ

ゑがし銭とほりし比に虎ありて人をくらふ時虎をころ
しえたるものあらば十萬貫をたまふべしと。榜文さらしけれは
越えて犬まろてひろでまくりなどし。そのうへかけあがの
らんとするを銭かふくの人豹とさとぶがいのちはをしからむやと
いつはたらふにころすべからざるいのちハ何のをしかんとつつく
へしとかくいふ。さわろふなる人のこころざしやさしにをとつ
しき事なれど、たからあつめをきるもの、人のうらみをし
あるをもかへりみず、悖さからうて入まるこ又さかうて出るものハ
うほども。それさへ遂ひにはその身もあやうくなりぬ。あかる
ふるまひてわかるるなまの世をのがろ異ることなく、漢の帝

乃西園に禮銭をとらへて、人のうらみはかるにあまりぬ。失火に
のきゆゑをおぼえ給ふぞ。董卓が郿塢のこめをあつめ置
てはそのうへに火をとをる銭はしらずはかりなくにいたりしと
いふべし。かくのゆゑなり。たからあつまれバ民散るとは
いひつたへけめ
たからは悖りて入るものハ又さからうていづるの事銭よりは。
上たる人お銭をこのみなどし、故なきに下よりとりあげ
ばへバ、あめつちもたひらかならず。洪水旱などしく
おこりて、なへの事はたえず多くなりぬ。又いかにしてか、かしこさ
まさにさこれをもちえとまうしたがらなまいくさ乃

はひえいでき、くら（倉）はらはそのいろもかはりてやゆくしものの
なりけるやうにしたるをその緒とりしもそのかといひ、あしからじこと
わざそひあるもさかふといふなりと、或はちまりてこれは
人のこころえてよそのたぐひを、下（しも）ざまのつねにもおほくある
あるじまでさまつく、いやしき商人（あきびと）など、公（おほやけ）の
その事をなす人といひあらせ、ひとつのおきてをかへてといへ
鹿（おろか）のなるものを精（くは）しといひ、上をあざむきてかくれ
なりことをやうけなどもするもの、人をも人のこころこそのむし
て朝（あした）なまめかし暮（くれ）はよろし失（うしな）ひつつ
られもそのかて悖（もと）りて人をなぞそのかていづかるてそするぬと、或（わく）

らしぼくなる人のいひしがごとと思ひ侍れ
世の中ほどおそろしきやうなるものはあらじ、たとへば國のい命（のち）
のちをうしなふ錢あつめては、六ござのうちにはたらひそこなひ代々のたから
らをとら失（うしな）ひ又たからは國もちたる錢あつむる人は、吝（やぶ）
さかまして家のはしあしくなりとおもひく、世のありさまはあし
くなりゆく錢をあつめ、或人（アルヒト）これにてかくりさ
此國には記録（キロク）をくわしおほよそ記録とりて治乱（ヂラン）興廃（コウハイ）のあ
と萬世（ヨロヅヨ）までの勸戒（クワンカイ）となる錢をためあらいさはいくさ
物語のかきちらし、書はかなき紙（カミ）のきれをみえるやらふ
づくいそろうしの事もいふんより此國はならずもがかしけるよ

ことしもあるとき文書にかゝれし紛ひありしなかに
かし何がしハさなくて数やらも國のためひろくすぐれたる人
の心を感ぜしむ。されバしの物語さるにハそれらにやさしき
づされ記録のなきところをもしくはれぞかわりて紀録
を作るべきハ才学識の三長なけれバといふそやさしき
ことにてあらじ。
いづれの国にても、秘帳日記などいひてかきしるしおくものあり。
年数つもりてみれバ牛に汗し棟に充る程となれど、おほく
ハ陰晴なとのいひつたふるのみにこまかに政務人
事にあづかりしもの議論辨令までしるしおくかた〳〵ハ希

なり。さゝやかなることなれバ、しばらく人ありて、閲
決せしその多しそれも五六十年にハをよぶべし、紀録に
きしのなきハ数百年ともなきことあらましたる人をたゞ
右におくりてねがはしからず、されバ此国の智恵ある
しもおよぶまじくひとつハ紀録ことしたゆるまゝ
世の中ほどあやしくもうしくそのわるしもくろく人
の紀録をくわしくもしかよるにいとしき書なれど紀
録を考へて、けやうに悪事数なし、この国よりのぞまバ
ことそなるわざおもふくみえ其臣のたすけてありたる
ハ記録なきことうちなるへしとおもはるゝなるべし

コキ三
午三五八 ワキツ二九九七

自注漢儒ハ経典をもて史徴をまじへなしめ國を
うばふの賊堯舜湯武をもて證據とさだめきびしめてする
をいふて

芳洲先生たはむれに上筆